

令和 5 年度事業計画

各拠点事業計画の重点目標

【子ども福祉部門】

啓明児童クラブ

1. 利用者様と共に
 - (1) 子どもの権利についての学びを深める。
 - (2) 合同のイベントや各拠点の様々な取組みを通して連携を深め、交流を進める。
2. 地域と共に
 - (1) 地域の課題について話し合う場に出向き、招くを通して地域ニーズを把握する。
 - (2) 子育て支援セミナー等子育て世代や家族に向けた情報発信をする。
 - (3) サービス外の在宅児や家族へのサポートを柔軟に取り組む。
3. 職員と共に
 - (1) 法人研修プログラムを始め、個々の専門性や人間力を高める研修等への主体的な参加を促進する。
 - (2) 人間関係を良好に進めるための接遇やコミュニケーション技術を習得および向上させる。
4. 地球と共に
 - (1) 職員が学び、話し合って、自ら取り組む。
 - (2) 子どもたちが自ら体験できる機会を作る（環境教育）。
 - (3) 子どもたちや事業所の SDGs への取り組みを発信する。
5. 経営基盤の安定化
 - (1) 利用者様や職員から選ばれる事業所となるよう、本部との連携強化でブランディングを推進する。
 - (2) 適正な人員配置・組織体制を構築する
 - (3) それぞれの拠点の経営課題に対して、法人本部と連携しながら優先順位の高いものから取り組む。

上文殊児童クラブ

1. 利用者様と共に
 - (1) 放課後児童健全育成事業の一般原則と権利擁護について学びを深め、個々を大切に支援を勧める。
 - (2) 啓明児童クラブとの交流や、他事業所の取り組みを生かしたイベントを行う中で、自己を発揮し、個々の温かな人間性や連帯感を育む。
2. 地域と共に
 - (1) 地域施設・住民（老人ホーム、公民館等）との交流を行い、人と関わる楽しさや、地域の良さに気付き好きになる。地域の課題について話し合う場に出向き、招くを通して地域ニーズを把握する。
 - (2) 地域に、児童クラブの実践についておたよりや、ホームページでの情報を発信し、理解に繋げる子育て支援セミナー等子育て世代や家族に向けた情報発信をする。
 - (3) 上文殊公民館や上文殊地区地域との交流に児童が参加する。職員も運営スタッフとして参画する。
3. 職員と共に
 - (1) 児童クラブの職員が専門研修や福祉会の【必須研修】を web ランニング形式で受講し、職員の資質向上につなげる。

- (2) 職員同士で接遇についての話し合いを継続し、利用者様や、ご家族の信頼につながるようにする。

4. 地球と共に

- (1) 市の出前講座を活用し、職員児童が SDGs について学び、共にゴミの分別の実践を継続する職員が学び、話し合っ、自ら取り組む。
- (2) 廃材や様々な資源を再活用し、発想豊かな遊びに繋げ、物に感謝する。子どもたちが自ら体験できる機会を作る。(環境教育)
- (3) 児童が行った SDGs の取り組みをおたよりや、ホームページで継続してお知らせする。子どもたちや事業所の SDGs への取り組みを発信する。

5. 経営基盤の安定化

- (1) 早朝・延長・土曜保育を、保護者のニーズに合わせ積極的に取り入れると共に、職員の勤務体制を整える。
- (2) 常時2名以上の職員数を確保し、適正な人員配置・組織体制づくりを行う。常に児童数の増減率を把握し、受託事業として適切な運用と月次決算による運営状況の把握を行う。

足羽東こども園

1. 利用者様と共に

- (1) 子どもの権利についての学びを深め、保育の質向上に向けた取り組みを実施する。
- (2) 合同のイベントや各拠点の様々な取組みを通して連携を深め、交流を進める。(こども福祉部門での話し合い 交流委員の取組み)
- (3) 一人ひとりに合った教育保育を常に提供し、成長を促すため、関係機関との連携や職員間での情報共有を行う。

2. 地域と共に

- (1) 地域の課題について話し合う場に出向いたり、招くを通して地域ニーズを把握する。
- (2) 子育て支援セミナー等子育て世代や家族に向けた情報発信をする。
- (3) サービス外の在宅児や家族へのサポートを柔軟に取り組む。(子育て支援事業／一時預かり 園開放 子育て相談)

3. 職員と共に

- (1) 法人研修プログラムを始め、個々の専門性や人間力を高める研修等への主体的な参加を促進する。
- (2) 職員関係を良好に進めるための、接遇や交流の積極的な取り組みを行う。
- (3) ICT を活用し職員の業務負担の軽減を行う。

4. 地球と共に

- (1) 職員が学び、話し合っ、自ら取り組む。(環境問題等についての職員の意識向上)
廃材や様々な資源を再活用し、発想豊かな遊びに繋げ、物に感謝する。子どもたちが自ら体験できる機会を作る。(環境教育)
- (2) 子どもたちが自ら体験できる機会を作る。(環境教育の取組み)
- (3) 子どもたちや事業所の SDGs への取り組みを発信する。(保護者と共に考える取組み)

5. 経営基盤の安定化

- (1) 利用者様や職員から選ばれる事業所となるよう、本部との連携強化でブランディングを推進する。
- (2) 適正な人員配置・組織体制を構築する。(園児数、業務内容に合わせた役割分担)
- (3) それぞれの拠点の経営課題に対して、法人本部と連携しながら優先順位の高いも

のから取り組む。

足羽学園

1. 利用者様と共に
 - (1) 「障害児入所施設運営指針」に基づき、現行の運営における子どもの権利「生きる・育つ・守られる・参加する」の再認識を深めるための取り組み検証及び改善を実施する。
 - (2) 「出向く・招く」のイベント等をとって子供たちの交流の実施する
2. 地域と共に
 - (1) 地域における「障がい理解」の促進、交流の場を通じた地域ニーズの収集を実施する。
 - (2) 地域に向けた子育て世代や家族へ情報発信する。
 - (3) 短期入所利用児や福祉サービスに繋がっていないニーズに対応のする取り組み実施する。
3. 職員と共に
 - (1) 業務に関する知識、質の向上に向けて職員個々の能力や習熟度に沿った研修機会への参加促進を図る。
 - (2) 職員がお互いに認めあい、フォローしあえる関係性を構築する。
 - (3) 職場環境（業務改善含に）に対する取り組みを実施する。
4. 地球と共に
 - (1) SDGs に関する基本知識の習得及び取り組みへのアプローチをする。
 - (2) 子どもたちの特性に応じた SDG s に関する体験を実施する。
 - (3) 障害児理解による SDGs の普及・促進を育むための情報発信をする。
5. 経営基盤の安定化
 - (1) 「地域に向けた施設」のイメージアップの実行部隊として、職員が一丸となつての取り組みを実施する。
 - (2) 職員の定着、業務負担軽減化に取り組み、人件費のコントロールを図る。
 - (3) 施設使命が担保される経営基盤の安定への取り組みを実施する。

あすわ児童発達支援センター

1. 利用者様と共に
 - (1) 子ども自身が権利の主体であることを理解し、成長とともに自らの思いを周囲に発信することができるように、子どもの権利についての学びを深める。
 - (2) こども部門合同のイベントや部門間の各拠点の様々な取組みを通して連携を深め、交流を進める。
 - (3) 利用者様や保護者の思いを途切れなく繋いでいくため、関係機関とチームで連携して取り組む。
2. 地域と共に
 - (1) 各地区の自立支援協議会など地域の課題について話し合う場に出向き、招くを通して地域ニーズを把握する。
 - (2) 支援セミナー等子育て世代や家族に向けた情報発信を行い、子育て等に関わる不安や悩みが解消できるようにする。
 - (3) 市内の既存の福祉サービス等につながらない、つなげることが難しい在宅児や家族へのサポートを柔軟に取り組む。
 - (4) 障がい福祉部門で検討されている「福祉のまちづくり事業」に拠点としてかわる。
3. 職員と共に

- (1) 法人研修プログラムを始め、個々の専門性や人間力を高める研修等への主体的な参加を促進する（育成）。
 - (2) 人間関係を良好に進めるための接遇やコミュニケーション技術を習得および向上（定着）。
 - (3) ICT やロボットなどのツールを活用して働きやすさが実感できる業務改善項目を部門内で共有し、更に拠点内の各部署で改善目標を見える化する。
4. 地球と共に
- (1) SDGs について職員が学び、話し合っ、自ら取り組めるように組織的に行う。
 - (2) 各事業で実施している活動内容等に子どもたちが自ら体験できる機会を作る（環境教育）。
5. 経営基盤の安定化
- (1) 利用者様や職員から選ばれる事業所となるよう、本部との連携強化でブランディングを推進する。
 - (2) 制度改正に左右されることのない安定的で未来志向につながる人員配置・組織体制を構築する。
 - (3) 拠点内各事業の経営課題に対して、法人本部や障がい福祉部門等と必要に応じながら、連携し優先順位の高いものから取り組む。

足羽学園

6. 利用者様と共に
- (3) 「障害児入所施設運営指針」に基づき、現行の運営における子どもの権利「生きる・育つ・守られる・参加する」の再認識を深めるための取り組み検証及び改善を実施する。
 - (4) 「出向く・招く」のイベント等として子供たちの交流の実施する
7. 地域と共に
- (4) 地域における「障がい理解」の促進、交流の場を通じた地域ニーズの収集を実施する。
 - (5) 地域に向けた子育て世代や家族へ情報発信する。
 - (6) 短期入所利用児や福祉サービスに繋がっていないニーズに対応のする取り組み実施する。
8. 職員と共に
- (4) 業務に関する知識、質の向上に向けて職員個々の能力や習熟度に沿った研修機会への参加促進を図る。
 - (5) 職員がお互いに認めあい、フォローしあえる関係性を構築する。
 - (6) 職場環境（業務改善含に）対する取り組みを実施する。
9. 地球と共に
- (4) SDGs に関する基本知識の習得及び取り組みへのアプローチをする。
 - (5) 子どもたちの特性に応じた SDG s に関する体験を実施する。
 - (6) 障害児理解による SDGs の普及・促進を育むための情報発信をする。
10. 経営基盤の安定化
- (4) 「地域に向けた施設」のイメージアップの実行部隊として、職員が一丸となつての取り組みを実施する。
 - (5) 職員の定着、業務負担軽減化に取り組み、人件費のコントロールを図る。
 - (6) 施設使命が担保される経営基盤の安定への取り組みを実施する。

【障がい者福祉部門】

足羽ワークセンター

1. 利用者様と共に
 - (1) E ラーニングを有効活用しながら就労支援や利用者様支援（虐待防止・権利擁護）の学びを組織内で共有できるように取り組む。
 - (2) 利用者様の真のニーズを引き出すようアセスメントの見直しを行う。個別支援計画が本人にとってわかりやすいものになるよう作成する。
 - (3) 利用者様支援における関係機関との連携を一層強化し、特に法人内の就労支援事業所との連携により途切れの無い一体的な就労支援体制をはかる。
 - (4) 利用者様が意欲や適性を生かして取り組むことができるよう作業メニューの選択肢を増やししながら、平均目標工賃月額を 40,000 円以上となるよう取り組む。
2. 地域と共に
 - (1) 活動を通して把握する個別の地域ニーズに可能な限り応えていく。
 - (2) 地域の食材や人材を活用し、地域とのつながりを意識した飲食事業を継続発展させる。
 - (3) 部門全体での「福祉のまちづくり事業」に参画し、地域ニーズにどのように応えられるかを協議検討する。
3. 職員と共に
 - (1) ICT 活用による事務処理軽減およびペーパーレス化を推進し、業務効率化を一層図る。特に調理職職の IT スキルを高めるよう環境やスキル向上支援を行う。
 - (2) lon1 を通して部下の思いを受け止めて、成長意欲をサポートし、一人ひとりのやりがいを高める。
 - (3) 組織内コミュニケーションを円滑に高め、新たな取り組みや問題解決に職員一人ひとりが主体的に関われるよう推進する。
4. 地球と共に
 - (1) 就労支援事業として「有機廃棄物の堆肥化事業」に参画し、R6 年度実現をめざす。
 - (2) 職員の SDGs 理解を進めるとともに、飲食事業におけるプラ使用減に取り組む。
 - (3) CO₂削減に向け、事務室の LED 化および車両リース契約時の HV 車購入を進める。
5. 経営基盤の安定化
 - (1) 「ここで働きたい!!」と利用者様に選ばれる事業所作りに取り組む。
 - (2) 活動実績のデータをもとに、PDCA をしながら就労支援事業収入増をはかり、利用者様の目標工賃月額平均 40,000 円以上を達成する。
 - (3) 足羽更生園との連携のもと、給食事業における安定生産およびコストパフォーマンス（費用対効果）向上に取り組む。

足羽サポートセンター

1. 利用者様と共に
 - (1) 利用者様の願いを尊重し、その思いを読み取った個別支援計画を作成できるよう専門性の向上を図る。
 - (2) 利用者様が安心して活動できるように、困難事例や事業所移行など、利用者様に関係することに対して積極的に取り組む。
 - (3) 農業事業の基盤づくりを行い、利用者様が安心して取り組める内容にする。
 - (4) 利用者様支援における関係機関との連携を強化し、特に法人内の就労支援事業所との連携によって一体的な就労支援体制をはかる。
2. 地域と共に
 - (1) 地域の清掃奉仕活動を行ったり、地域活動に積極的に参加して、地域の情報を共有

する。

(2) 災害時対応について地域と協議し、安心して過ごせるよう地域の避難計画作成に関わる。

(3) 福祉のまちづくり事業計画に参画し、地域の方々とのふれあいを感じられる内容にする。

3. 職員と共に

(1) 利用者様への支援業務に集中し、質の高いサービスを提供できるよう、ICT を活用した業務改善への取り組みを検討する。

(2) 職員個々のキャリアビジョン達成に向けて、1 on 1 コミュニケーションを行って個別育成計画を立てたり、あすなろを活用した研修への参加を推進したり、事例発表を行うことにより、職員の意欲や自信につなげる。

(3) 農業を行うために求められる専門性の向上を図る。

4. 地球と共に

(1) 有機廃棄物の堆肥化に向けた計画検討する。

(2) 農作物の自給率向上と就労支援事業が成り立つ農業計画（品目・作地面積・収穫量など）を検討する。

(3) CO2 の排出削減の方法を学び、EV・HV など環境負荷軽減の設備導入を検討する。

5. 経営基盤の安定化

(1) 利用者様の可能性が広がる事業として「農業」を利用者様やご家族様目線で発信する。

(2) 収支や KPI 設計を整えてわかりやすくし、事業運営を職員が共有して PDCA を回し、改善策に取り組む

パステル

1. 利用者様と共に

(1) 年間受講計画立案のうえ、月ごとにテーマを決めて e ラーニングを聴講し、支援会議等を活用して振り返りを行い、本人の思いや希望を確認（意思決定支援）するあり方や自己実現を図る。

(2) 利用者様のニーズや家族の思いを汲み取りながら、「良いところ」を中心にアセスメントを再作成し、3 か月に 1 回のモニタリングの時期には必ず見直しを図る。

(3) チームケアによる基盤づくりの為に日中の就労系事業所（パステル、足羽ワークセンター、足羽サポートセンター）との定例会議を持ち、施設外支援、事業所移行・利用、作業内容等の話し合いを行なうことで良質な支援体制を構築する。

(4) 利用者様の夢や希望が実現する為、就職に向けてのプロセス（事業所内での講座、見学、実習、ハローワーク登録、トライアル雇用等）を確立させ、利用者様を始めた地域発信が出来るモデル実践事例（1 件～2 件）を作成し周知、PR する。

2. 地域と共に

(1) 地域の清掃奉仕活動や地区体育大会、公民館活動等の地域活動に参加し、事業所と地域の交流を 1 回/2 ヶ月を図り、地域の情報を確認・共有する。

(2) 部門全体での「福祉のまちづくり事業」に参画し、地域ニーズにどのように応えられるかを協議検討する。

3. 職員と共に

(1) 事業所内での業務改善は何か（記録時間、送迎のあり方、会議のコンパクト化、紙出力等）を明確にし見える化をしながら、ICT 活用（音声入力、アプリ活用等）を検討する。

(2) 1on1 コミュニケーションを定例実施し、職員個々のキャリアビジョンを明確にし、

そのうえでの研修受講や事例発表を行なうことで、自信ややる気につなげる。

- (3) 生活訓練から就職支援まで利用者様の生活の基礎からステップアップした就労自立までと幅広い支援の中で職員がサービス部門（自立訓練会議む、就労移行支援会議等）の会議や実践ケース会議等を通じてチーム力を高め、お互いに学びあえる良好なコミュニケーションと専門性を目指す。

4. 地球と共に

- (1) 事業所全体で SDGs の理解を促進し、身近にできることを推進する。

5. 経営基盤の安定化

- (1) 各サービス毎の収支や KPI 設計を整え、事業所全体で運営（事業費や利用者様の増減、見学者・体験者や PR の数等）を職員全体で共有し PDCA を実行する。
- (2) 事業所移転を前期中に完了し、利用者様の支援、利用者様確保、周知等を確実にしない、経営の安定化、有期限利用の経営プログラムを見える化していく。
- (3) パステルにおける利用者様に向けた途切れのない支援（＝最後までフォロー・ケアをするという体制）をブランディングし法人ブランディングとリンクさせることで利用者様に選んでもらえる事業所（＝利用者様が途切れない運営）とする。

スマイル

1. 利用者様と共に

- (1) 利用者様の満足度向上を目指し、ニーズの把握に向けた職員のスキルアップを図ることを目的に、e ラーニングの計画的な受講を実施する。
- (2) 「利用者様中心」の支援方針のもと、関係機関との連携強化のもと、定期・適時カンファレンスを実施する。

2. 地域と共に

- (1) 地域に根付いた事業所づくりを目指し、地域と共に創る「福祉のまちづくり」について企画・立案していく。
- (2) 和田、和田東地区における積極的な交流活動や奉仕活動を通して、地域の課題の共有や相互の理解を深める。

3. 職員と共に

- (1) 職員が利用者様支援に係る業務に集中して、より質の高いサービスを提供できるよう、ICT 活用による業務改善への取組みを検討する。
- (2) 職員との 1on1 面談の実施を通して、福祉の仕事にやりがいと誇りを持てるよう職員個々のキャリアビジョンに応じた個別育成計画を実施する。
- (3) 職員同士がワンチームとなり業務に臨めるよう、チーム支援力の構築に努める。

4. 地球と共に

- (1) 「福祉のまちづくり」における環境に配慮した取り組みについて検討していく。
- (2) CO2 削減に向けた取り組みについて、環境に対する職員の意識改革を実施する。

5. 経営基盤の安定化

- (1) スマイルに特化したサービス目標の設定（ブランドイメージの構築）を目指し、障がいの隔ての無い利用者受入れに向けたサービス提供の在り方を検討する。
- (2) 事業の「見える化」による安定運営を目指し、提供するサービスの目標設定と達成を目指す。
- (3) 3 年後の事業所の在り方を思い描き、利用者様やそのご家族が求める事業所の在り方検討する。

カラフル

1. 利用者様と共に
 - (1) 利用者様の満足度向上を目指し、ニーズの把握に向けた職員のスキルアップを図ることを目的に、eラーニングの計画的な受講を実施する。
 - (2) 「利用者様中心」の支援方針のもと、関係機関との連携強化のもと、定期・適時カンファレンスを実施する。
 - (3) 共生型通所介護事業所として質の高いサービスを提供を目指し、支援体制を構築する。
2. 地域と共に
 - (1) 地域に根付いた事業所づくりを目指し、地域と共に創る「福祉のまちづくり」について企画・立案していく。
 - (2) 東藤島地区における積極的な交流活動や奉仕活動を通して、地域の課題の共有や相互の理解を深める。
3. 職員と共に
 - (1) 職員が利用者様支援に係る業務に集中して、より質の高いサービスを提供できるよう、ICT活用による業務改善への取組みを検討する。
 - (2) 職員との1on1面談の実施を通して、福祉の仕事にやりがいと誇りを持てるよう職員個々のキャリアビジョンに応じた個別育成計画を実施する。
 - (3) 職員同士がワンチームとなり業務に臨めるよう、チーム支援力の構築に努める。
 - (4) 職員が安心して働くことのできる環境づくりを実施する。
4. 地球と共に
 - (1) CO2削減に向けた取り組みについて、環境に対する職員の意識改革を実施する。
 - (2) 事業所における節電対策の検討・実施する。
5. 経営基盤の安定化
 - (1) カラフルに特化したサービス目標の設定（ブランドイメージの構築）を目指し、障がいの隔ての無い利用者受入れに向けたサービス提供の在り方を検討する。
 - (2) 事業の「見える化」による安定運営を目指し、提供するサービスの目標設定と達成を目指す。
 - (3) 3年後の事業所の在り方を思い描き、利用者様やそのご家族が求める事業所の在り方検討する。

足羽更生園

1. 利用者様と共に
 - (1) 利用者様の権利擁護及び意思決定を軸とするその人らしい生活が営まれる為の個別支援計画や専門スキルの向上を図る。
 - (2) 拠点間及び事業所間を超えたその人にあった暮らしを支える支援体制の構築する。
2. 地域と共に
 - (1) 地域の課題に耳を傾ける機会を設け、地域で抱える課題の解決に関して取り組みを推進すると共に、定期的に法人と地域の情報を発信する。
 - (2) 地元自治会（前波・宿布地区）と協議し、災害時における協力体制の準備を実施する。
 - (3) 地域に根付いた事業所づくりを目指し、地域と共に創る「福祉のまちづくり」について企画・立案する。
3. 職員と共に
 - (1) ICT やツールを活用して働きやすさが実感できる業務改善を行い負担軽減への取組みを実施する。

- (2) 個々のキャリアビジョンの達成に向け、1on1 コミュニケーションの活用し、個々の育成計画を立案・実施する。
- (3) 職場における心理的安全性を高め、コミュニケーションが活発な風土づくりに取り組みを実施する。
- 4. 地球と共に
 - (1) 有機廃棄物の堆肥化事業に向けた計画検討開始する。
 - (2) 農作物の自給率向上と就労支援事業が両立した農業計画に必要なデータの集積を実施する。
 - (3) CO2 排出削減の方法を学びながら、EV・HV や太陽光発電など環境負荷軽減策の検討。
- 5. 経営基盤の安定化
 - (1) 園（法人）の強みを活かした途切れのないサービス連携を基に、地域における重度者支援体制への強化に向けた取り組みを実施する。
 - (2) マネジメント力向上の取り組みとして、収支や KPI 設計による運営状況を見える力を養う。
 - (3) 給食事業の安定生産及びコストパフォーマンス（費用対効果）の向上への取り組みを実施する。

あすわ第 1

- 1. 利用者様と共に
 - (1) e-ラーニング等の活用により権利擁護、意思決定支援の学びを深め、利用者様にも勉強会を通して学ぶ機会を設ける。
 - (2) 利用者様の願いや思いを読み取った個別支援計画を策定し、支援の統一、チームでの取り組みを強化する。
 - (3) 利用者様の安心・安全な暮らしを支えるための体制づくり、環境整備を行う。
- 2. 地域と共に
 - (1) 地域の活動に積極的に参加し交流を深め、定期的に法人やグループホームの情報を発信する。
 - (2) 災害への備えを整え、地域の課題を知る。
 - (3) 地域での生活を持続するための短期入所を積極的に受け入れる。
 - (4) 福祉のまちづくり構想へ向けた取り組み。
- 3. 職員と共に
 - (1) ICT やロボットなどのツールを活用して働きやすさが実感できる業務改善をする。
 - (2) 一人ひとりが 3 年後の自分の目指す職員像が描け、ワクワク感や達成感を感じながら一緒に成長していける取り組み。
 - (3) 質の高いチーム支援の実現に向け、良好なコミュニケーションと専門性を高める。
- 4. 地球と共に
 - (1) SDGs について利用者様と共に学び、暮らしの場面でできることに取り組む。
 - (2) 農作物等の栽培を行い、緑化活動に取り組む、また有機廃棄物のたい肥化に向けた計画に参画する。
 - (3) CO2 排出削減の方法を学びながら、EV・HV や太陽光発電など環境負荷軽減の設備を検討する。
- 5. 経営基盤の安定化
 - (1) 法人ブランディングプロジェクトを理解し協働しながら、事業所の良さを知ってもらい利用促進に繋げる。
 - (2) 持続可能な事業所の運営と途切れないマンパワーの確保。

(3) 経営課題にスピード感をもって取り組み、経営の安定化を図る。

あすわ第2

1. 利用者様と共に
 - (1) Eラーニング等の活用により、権利擁護、意思決定支援の学びを深め、利用者様にも勉強会を通して学ぶ機会を設ける。
 - (2) 利用者様の願いや思いを読み取った個別支援計画を作成し、支援の統一やチームでの取り組みを強化する。
 - (3) 利用者様が安心安全な生活を支える体制づくり、環境整備を行う。
 - (4) 自己肯定感の育成を行う。
2. 地域と共に
 - (1) 地域活動に積極的に参加し、地域の方々との交流を深め、定期的に法人や GH の情報を発信する。
 - (2) 災害の備えを整え、地域の課題を知る。
 - (3) 地域での生活をサポートするための短期入所を積極的に受け入れる。
 - (4) 福祉のまちづくり構想に向けた取り組み。
3. 職員と共に
 - (1) ICT やロボットなどのツールを活用して働きやすさが実感できる業務改善を行う。
 - (2) 一人一人が 3 年後の自分の目指す職員像が描け、わくわく感や達成感を感じながら、ともに成長する。
 - (3) 質の高いチーム支援の実現に向け、良好なコミュニケーション専門性を高める。
4. 地球と共に
 - (1) SDGS について利用者様と共に学び、暮らしの場面でできることに取り組む。
 - (2) 農作物等の栽培を行い、緑化活動に取り組む。また、有機たい肥物計画に参画する。
 - (3) CO2 排出削減の方法を学びながら、EV・HV や太陽光発電など環境負荷軽減の設備を検討する。
5. 経営基盤の安定化
 - (1) 法人ブランディングを理解し、協働しながら、事業所の良さを PR し、利用促進につなげる。
 - (2) 持続可能な事業所運営を行う。
 - (3) 経営課題にスピード感をもって取り組み、経営の安定化を図る。
 - (4) 適正な人員配置と途切れないマンパワーの確保を行う。

あすわ第3

1. 利用者様と共に
 - (1) Eラーニング等の活用により、権利擁護、意思決定支援の学びを深め、利用者様にも勉強会を通して学ぶ機会を設ける。
 - (2) 利用者様の願いや思いを読み取った個別支援計画を策定し、支援の統一、チームでの取り組みを強化する。
 - (3) 利用者様の安心、安全な暮らしを支える為の体制づくり、環境整備を行う。
2. 地域と共に
 - (1) 地域活動に積極的に参加し、地域の方々との交流を深め、定期的に法人やグループホームの情報を発信する。
 - (2) 災害への備えを整え、地域の課題を知る。
 - (3) 地域での生活をサポートするための短期入所を積極的に受け入れる。
 - (4) 「福祉のまちづくり」への取り組みに共同し、地域のニーズを探る。

3. 職員と共に
 - (1) ICT やロボットなどのツールを活用して働きやすさが実感できる業務改善をする。
 - (2) 一人ひとりが 3 年後の自分の目指す職員像が描け、ワクワク感や達成感を感じながら共に成長する。
 - (3) 質の高いチーム支援の実現に向け、良好なコミュニケーションと専門性を高める。
4. 地球と共に
 - (1) SDGs について利用者様と共に学び、暮らしの場面で出来ることに取り組む。
 - (2) 農作物等の栽培を行い、緑化活動に取り組む。また、有機廃棄物のたい肥化に向けた計画に参画する。
 - (3) CO2 排出削減の方法を学びながら、EV・HV や太陽光発電など環境負荷軽減の設備を検討する。
5. 経営基盤の安定化
 - (1) 法人ブランディングを理解し協働しながら事業所の良さを PR し、利用促進につなげる。
 - (2) 持続可能なグループホームの運営と、途切れないマンパワーの確保。
 - (3) 経営課題にスピード感をもって取り組み、経営の安定化を図る。

あすわ相談支援事業所リアン

1. 利用者様と共に
 - (1) E ラーニング等の活用により、障がいに対する支援、権利擁護、意思決定支援の学びを深め、利用者様の希望の実現や、困りごとを解決していけるよう適切な提案やサービス調整の専門性を向上させる。
 - (2) チームケアによる支援を重視し、拠点間の繋がりを密にしていくことで、個々の世代に応じた生活スタイルを確立できる支援体制（相談員、サビ管、関係者など）の基盤づくりを行う。
2. 地域と共に
 - (1) 利用者様や利用者様が暮らす地域住民の目線で課題解決に取り組んでいけるよう、関係者の声を聞き、課題を共有する。
 - (2) 災害時対応を地域と協議したり、優先度の高い利用者様の個別避難計画書を作成して非常時の備えをする。
 - (3) 福祉のまちづくり事業計画に参画し、地域の方々とのふれあいを感じられる内容にする。
3. 職員と共に
 - (1) 業務の無駄やムラをなくし、業務のスリム化や働きやすさが実感できるようにする。
 - (2) 個々のキャリアビジョンの達成に向け、自己研鑽、研修参加等の学びの機会を広げられるようにする。
 - (3) 相談業務の負担軽減、孤立化を防げるよう、チーム支援で取り組む体制づくりと個の資質向上に取り組む。
4. 地球と共に
 - (1) CO2 排出削減・環境負荷の軽減方法について、自分たちができることを学び、考え、実行する。
5. 経営基盤の安定化
 - (1) 外部から見た各事業所の課題や強みを法人にフィードバックすることで、法人内各事業所が外部に対する取り組み方法が見えるようにして PDCA を行い、選ばれる事業所となるようにする。

- (2) KPI 設計により事業所運営を職員が共有し、PDCA を行うことで改善を図り、職員のマネジメント力向上に取り組む。

【高齢者福祉部門】

愛全園

1. 利用者様と共に
 - (1) 職員一人ひとりがストレスを抱え込まない職場環境構築を行う。利用者様の真のニーズを引き出すようアセスメントの見直しを行う。個別支援計画が本人にとってわかりやすいものになるよう作成する。
 - (2) パーソン・センタード・ケア実現の為、「その人」を知る適切なアセスメントを行う。
 - (3) お一人お一人の思い(ACP 理念)の実現に向けた担当者会議の確実な実施とチーム形成を図る為の事例検討会を開催する。
2. 地域と共に
 - (1) 地域住民との関係構築と課題収集分析を行う中で、運営推進会議などの場を通じた法人事業所の情報発信を行う。
 - (2) 災害時における法人の役割（福祉避難所設置、DWAT 派遣等）を発揮できる体制整備を図る。
3. 職員と共に
 - (1) インターンシップ及び実習を魅力あるプログラムへと進化し、足羽福祉会へ就職したいと思える機会とする。
 - (2) 法人研修プログラムの推進（あすわ ers 推進と共に）と共に、高齢者福祉部門で求められる専門性向上が出来る研修体制の構築を行う。（e ラーニング・認知症研修・感染症対応）。
 - (3) ICT 導入に関してはインフラ整備及び介護支援記録ソフトの見直し・導入を行うと同時に、記録し易い職場環境整備も同時に行う。
 - (4) 利用者様及びご家族からのカスタマーハラスメントに対する体制整備を行う。
4. 地球と共に
 - (1) SDGs の取組みの周知浸透を図る。
 - (2) 自然災害対応の為の公用車 1 台配置する。
5. 経営基盤の安定化
 - (1) 地域の中で困りごとがあったときに地域から「愛全園」と思ってもらえる取組み。
 - (2) 各事業の人員配置と目標収益の明確化を図る。（予算管理を含む）
 - (3) KPI 設計による成果の見える化、PDCA で改善させる仕組化など管理職のマネジメント力強化の取り組みを実施する。
 - (4) リスク管理・経営マネジメント研修へ計画的参加（研修受講後の PDCA）。

足羽利生苑

1. 利用者様と共に
 - (1) 高齢者虐待防止法、高齢者虐待防止対応指針の理解及び未然防止への知識や学びを深める。
 - (2) 利用者様をより良く知るためのアセスメントの質を高める職種間連携体制を整備し、チーム全体で取り組む自立支援介護サービスに繋げる。
 - (3) ACP 理念を根幹に踏まえた事例研究の積み重ねにより、実現へのチーム形成を構築する。
2. 地域と共に

- (1) 部門全体で取り組む地域支援活動の拠点間相互参加、協力態勢を構築し、活動と地域ニーズが有機的に繋がるよう関係者との話し合いの場を持つ。
- (2) 福井県災害派遣福祉チーム（福井 DWAT）に参加申請する。地区防災組織との福祉避難所の在り方及び災害発生時の法人本部との連携についての共有の場を持つ。
3. 職員と共に
 - (1) プレゼン資料の内容見直しと職場風土がインターンシップ及び実習の機会をとおして入職への気持ちを印象付けられる受け入れ体制を充実する。
 - (2) 一人ひとりのキャリアビジョン実現に向けた法人研修への参加及び専門性向上への施設内外研修の受講体制を強化する。
 - (3) 職場満足度調査結果を踏まえた職場環境改善、ICT の活用による健康管理システムの検討、事務処理軽減及びペーパーレス化を推進する。
4. 地球と共に
 - (1) SDG s の取り組みを周知し、CO2 排出削減に向けて施設で何ができるか検討する。
 - (2) 社用車の CO2 排出削減に向けた対応を検討する。
5. 経営基盤の安定化
 - (1) 足羽利生苑の提供するサービスの特色を積極的に発信し、利用したいと印象づけられる情報発信スキルを高める。
 - (2) 展開する各事業の規模に応じた適正人員を配置し、事業継続との収支バランスが成り立つ目標収益を明確化する。
 - (3) 事業運営データをもとにした経営課題に対し、KPI 設計による「見える化」への取り組みを推進する。

グループホーム美山

1. 利用者様と共に
 - (1) なんでも言い合える風通しの良い職場づくりを行う。
 - (2) パーソン・センタード・ケア実現の為、「その人」を知る適切なアセスメントと情報の共有化を図る。
 - (3) お一人お一人の思い(ACP 理念) の実現に向けた担当者会議の確実な実施とチーム形成を図る為の事例検討会の実施。
2. 地域と共に
 - (1) 地域住民との関係構築と課題収集分析、活動、交流を行う中で、GH 美山独自の地域支援の継続。
 - (2) 災害時における法人の役割を発揮できる体制整備。
3. 職員と共に
 - (1) ブランディング推進及び法人採用計画を有機的につないでインターンシップ、実習の受け入れ体制を強化する。
 - (2) 法人研修プログラムの推進（あすわ ers 推進と共に）と共に、高齢者福祉部門で求められる専門性向上が出来る研修体制の構築（e ラーニング・認知症研修・感染症対応）。
 - (3) ICT 導入に関してはインフラ整備及び介護支援記録ソフトの見直し・導入を行うと同時に、記録し易い職場環境整備も同時に行う
 - (4) (4)職員満足度調査の PDCA を行い、安心して働き続けられる職場環境構築（ハラスメント対策も含む）。
4. 地球と共に
 - (1) 事業所職員へ SDG s の取り組みの周知浸透を図る。
 - (2) 既存車両のリース契約への切替検討（助成車輛除く）し、新たな車両の EV、PHV ま

たはHV車への切替を推進。

(3) 法人障がい者福祉部門と連携し、有期廃棄物の堆肥化の推進。

5. 経営基盤の安定化

(1) 法人ブランディングを活用した事業所特色の公開・情報発信。

(2) 各事業毎の人員配置と目標収益の明確化（予算管理を含む）。

(3) KPI 設計による成果の見える化、PDCA で改善させる仕組化など管理職のマネジメント力強化の取り組み。

(4) リスク管理・経営マネジメント研修へ計画的参加（研修受講後のPDCA）。

福井大東包括支援センター

1. 利用者様と共に

(1) 地域住民の命や願いを尊重し、安全・安心して地域で暮らせるために高齢者虐待防止の取り組みのPDCA体制構築をする。

(2) 地域住民の命や願いを尊重し、安心して地域で暮らせるために、関係者を巻き込みながら実践し、高齢者分野事例検討会での報告を機会にPDCAできている。

2. 地域と共に

(1) 地域住民の命や願いを尊重し、安心して住み慣れた地域で暮らせるために、関係者を巻き込みながら実践しだれ一人残さず、支援に繋げるためにネットワーク構築。

3. 職員と共に

(1) 確保：ブランディング推進及び法人採用計画を有機的につないでインターンシップ、実習の受け入れ体制を強化する。

(2) 育成：法人研修プログラムの推進（あすわers推進と共に）と包括支援センターで求められる専門性の向上ができる研修体制の構築。

(3) 定着：職員が安心して働き続けられる職場環境の構築。

4. 地球と共に

(1) 職員一人ひとりが地球温暖化に関心を持ち、部門内でできるCO2削減方法を検討。

5. 経営基盤の安定化

(1) 身近な存在「ほやねっと大東」と認識してもらえるように、各地区・各世代へ対応した方法で情報発信する。

(2) 各住み慣れた地域で安心して暮らせるための方策として市が包括に求める水準をクリアする。